

佳作

## 左手のピアニスト

埼玉県熊谷市立熊谷西小学校二年 新井美結

わたしは、ピアノを五さいの時から、ならっていません。

でも前は、ピアノのれんしゅうがイヤで、ピアノのけんばんの上に足をのせたり、けんばんの上でねたりしていました。そして、何回も母におこられました。

きょ年、はじめてピアノのコンクールのよせんに出ました。けっかは、ひょうしょうされましたが、どりよくしようでした。コンクールの本せんには、出られませんでした。一ばんいいしようの入しようをとらないと、本せんには、出られないのです。

そんな時、『左手のピアニスト』の新聞きじを読みました。新聞きじの女せいは、「ピアノを人のために」と音楽りょうほうしをこころざし、音楽大学で勉強をしていたそうです。

一日八時間もピアノのれんしゅうをしていたそうです。わたしは、五分間で、ピアノのれんしゅうにあきてしまいます。だから、八時間もピアノのれんしゅうをするなんて、すごいなあと思いました。

でも、その女せいは、大学二年生の時に、びょう気になり、右手がうごかなくなっていました。ふつうの人だったら、ピアノの道をあきらめてしまうと思います。でも、その女せいは、「左手のピアニスト」の道にすすんだのです。今は、ピアノのえんそう会をひらいているそうです。

新聞で、「左手のピアニスト」のことをしり、びょう気で左手しかうごかなくてもどりよくすれば、ゆめはかなうということを学びました。

もうわたしは、ピアノのけんばんの上に足をのせたり、けんばんの上でねたりしないで、ピアノのれんしゅうをがんばっています。どりよくしていなかった自分に、気がついたからです。今年こそは、ピアノのコンクールの本せんに出られるようにがんばります。

そしていつか、「左手のピアニスト」のえんそうをきいてみたいです。

また一つ、ゆめがふえました。